

第 15 回 日本生殖看護学会 学術集会

一般演題 P-8

新潟, 2017. 9. 10

不妊症患者の意思決定を支える情報提供の機会(ハピネス)の実践報告

Educational program “HAPPINESS” as provision of information for  
decision -making of fertility patients.

桑原愛<sup>1</sup> 橋本知子<sup>1</sup> 中岡義晴<sup>1</sup> 森本 義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>IVF なんばクリニック <sup>2</sup>HORAC グランフロント大阪クリニック

## I. 目的

当院では、不妊治療や選択肢について理解してもらうために、月 1 回の学習の機会(ハピネス)を開催している。公表については院内倫理委員会にて承認を得ている。本実践報告の目的は、患者の意思決定に必要な情報を看護職が提供する機会(ハピネス)を紹介し、そこに参加する患者の会に対するニーズを明らかにすることである。

## II. 実践内容とその評価

実践内容として、テーマを 6 つに分け月替わりで行った。テーマの内容は、「初診時の検査について」「タイミング・人工授精について」「体外受精スケジュールについて」「治療中の気持ちについて」「不育・着床障害について」である。実践内容の評価はアンケートによって行った。対象は 2015 年 1 月～2017 年 3 月までに「ハピネス」の会に参加した 215 名で、質問用紙法とし、質問内容は「性別」「不妊治療歴」「現在行っている治療内容」「本日の会の内容に対して」「今後も会に参加してみたいか」であった。回収は会の終了後に出入り口付近に回収箱を設置。対象者の参加の自由を保持した。

## III. 結果

性別は女性 136 名、男性 50 名、不明が 29 名であった。1 人で参加の方が 96 名、ご夫婦で参加の方が 116 名、その他が 3 名であった。治療歴として 1 年未満が 118 名、1～5 年が 83 名、6～10 年が 3 名、それ以外が 11 名であった。今現在の治療としては検査のみ 93 名、タイミング治療・人工授精 66 名、体外受精 41 名、それ以外 12 名であった。内容についてはとてもよかったが 67 名、よかったが 120 名、まあまあ 21 名、よくなかったが 1 名であった。今後も参加してみたいかの問いに対しては、とてもそう思う 48 名、思う 141 名、どちらともいえない 24 名、思わない 1 名であった。その他の項目については当日発表する。

## IV. 考察

ご夫婦での参加が 54%と二人で学ぶという積極的な姿勢の夫婦が多いことがわかった。回答者の 74%が検査、もしくはタイミング治療・人工授精の段階であり、また 87%が内容に対し、とてもよかった、もしくはよかったと回答しており、ターゲットとして想定していた一般治療を行う患者のニーズを満たした会になっていると確認できた。

## V. 結論

治療段階に応じた勉強会の有効性が確認できたので、現行の会を発展させると共に、体外受精等、異なる治療段階の方を対象とした会も検討していきたい。